

第1回 教員等資質向上に関する連携協議会 意見概要

日時:9月15日(火)10:00~11:30 会場:県庁201会議室

1 指標の全体像

- ・ 指標には最終的な到達目標が明示されていないと、実効的なものにならない。
- ・ 指標という用語の捉え方を明確にすべき。

2 指標策定範囲 <座長まとめ>・・・校長・教諭の2種策定。校種別のもは必要ない。

- ・ 高校教諭・・・教諭像は抽象化するので、あるべき姿を示し、あとは各学校で指導する他ない。
- ・ 養護教諭・栄養教諭・・・職務内容が包含されていれば、共通指標で対応可能。
- ・ 校長に教頭を含めて管理職指標にするか検討が必要

3 キャリアステージの設定 <座長まとめ>・・・ミドルリーダーの位置付けを検討。

- ・ 3期に分けることは適切（ただし研究主任の専門的な研修があるとよい）。
- ・ 第3期が長い。第4期を検討してもよい。教頭やミドルリーダーから上をどこに位置付けるか。
- ・ ミドルリーダー等、第4期に当たるものを、学校運営あたりに入れるならよい。
- ・ ミドルリーダー育成が重要という考え方が表れるとよい。

4 着任時に求める姿

- ・ 教科専門性が高くやる気もあるが、学級経営や保護者・地域に積極的に関わる力がない。
- ・ 誰とも関われる人としての基本コミュニケーション力が低い。
- ・ 基本的な力を付けて欲しい。人に教えられるだけでなく、自分で考え前へ進む力が必要。
- ・ 大学卒業時に授業構想力、コミュニケーション能力が求める水準に到達していない。

5 図の表現・指標の語句

- ・ 円柱の「教員としての基盤」と、第1期の「基礎形成期」を整理すべき。
- ・ 生徒指導と学習指導は連動しているはず。手前と後ろの柱の関連性が見えない。
- ・ 進路指導の指標は、目標や趣旨が理解できる。特別支援教育でも同様に考えられる。
- ・ 着任時の求める資質に学級経営力を入れるのは無理がある。

- ・ 「資質能力」→「資質・能力」。中教審答申はすべて「資質・能力」。
- ・ 「学び続ける教員の重要性」は、技法的に違和感がある。
- ・ 「服務規律を徹底し」の規律は名詞なので、徹底はおかしい。
- ・ 「単元等のまとまり」は「単元を通して」などにすべき。
- ・ 「身近な社会や生活」は、語順、発達観により「生活」が先に来るはず。
- ・ 「授業等、児童生徒の主体的な学び」は、文法的に合わない。
- ・ 「校内の教育課程や授業づくり」は、教育課程「の編成」が入らないとおかしい。
- ・ 「とおして」は漢字の表記になる。
- ・ 「進路や将来に適した」は、将来は分からないので「適した」はおかしい。
- ・ 目標に準拠した評価の文末表現に合わせるべき（「〇〇している」か「〇〇する」か）。文科省の評価基準参照。
- ・ ルーブリックは「〇〇できている」のように表現。ルーブリックを参考にするとよい。

6 その他

- ・ 教育現場の課題解決のために、現場のOJTの充実を考えるべき。